

ピョンファ・エ・ダリ (平和の橋) 韓国への旅

歴史を知り、伝え、 互いを思いやる気持ちを 未来へつなぐ



国立民俗博物館の前で。

グリーンコープは、平和の取り組みの一環として、日韓の過去を認識し未来へ向けて市民が連帯することを目的に、コロナ禍前まで毎年組合員が韓国を訪問していました。今年、5年ぶりに再開された「ピョンファ・エ・ダリ(平和の橋)韓国への旅」に、12人の組合員が参加しました。日本による侵略の歴史に向き合い、韓国の生協組合員との交流をおして市民同士の連帯を確認する旅となりました。共同体代表理事の日高容子さんと共同組織委員会委員長の上川畑由美さんの感想を紹介します。

- ### 韓国での行程
- 8月31日
 - 【歴史を学ぶ①】 独立記念館見学
 - 9月1日
 - 【文化を味わう①】 景福宮見学
 - 国立民俗博物館見学
 - 仁寺洞散策
 - 【歴史を学ぶ②】 タブコル公園見学
 - 【歴史を学ぶ③】 西大門刑務所歴史館見学
 - 【文化を味わう②】 広蔵市場散策
 - 9月2日
 - 【連帯を高める①】 ウリムドゥレ生協との交流
 - 【連帯を高める②】 ウリムドゥレ生協店舗見学

ウリムドゥレ生協との昼食交流会の会場で組合員のみなさんと。



西大門刑務所歴史館内の収監者が運動した場所「隔壁場」を見学。



独立記念館。従軍慰安婦の問題を取り上げた展示。

お互いを知り連帯することで 平和な関係、日常をつくることができる

共同体代表理事 日高容子さん

わたしはこれまで、日本が韓国に行った侵略の歴史について、漠然とした知識しかありませんでした。今回韓国に行き、訪れた場所で自分の目で見てお話を聞き出すことで、加害者としての日本を日本人として考え、一人の人間として感じ、向き合い、平和について考える機会となりました。侵略の歴史は名前を奪い、言葉、文化も奪い、人とのつながり、そして命も奪うものでした。心苦しくなる場面もありましたが、それらの事実を正しく知ること、お互いを理解することが大



ウリムドゥレ生協のみなさんと伝統的な歌と踊りで交流を深めました。前列中央が日高さん。



一緒に「元氣くんマーチ」を踊りました。

切だということを深く感じました。ウリムドゥレ生協のみなさんとの交流は、自己紹介から始まり、ゲームなどを通して楽しく交流することが出来ました。あたたかく迎えていただき、以前からの友のように、なごやかな交流会となりました。グリーンコープからの出し物として「元氣くんマーチ」を踊りましたが、韓国のみなさんも一緒に踊ってくださり大変嬉しかったです。交流を通して、人と人がつながり、お互いを知り、思いやりを持って連帯することができたなら、平和な関係、日常が送れるのではない

だろうか、と考えました。この取り組みはコロナ禍の期間の中断はありましたが、今回で24回目となりました。この間、通訳で同行いただいている方をはじめ、多くの方々への支えがあり、この平和の取り組みが継続出来ていることを金顧問の言葉で知り、感動と感謝の気持ちでいっぱいになりました。これからはグリーンコープの原点である、「共生」と「平和」について考えていきたいと思っています。「平和」について考える時となり、大変充実した学びの多い3日間となりました。

※グリーンコープ共同組織委員会の金起雲さん、ピョンファ・エ・ダリ韓国への旅を提唱した金榮注さんの長男、通訳として同行し、各所の説明を行った。

一人ひとりが信頼関係を育てて連帯し 平和な未来をつくる

共同体組織委員会委員長 上川畑由美さん

今回の「ピョンファ・エ・ダリ韓国への旅」は、まるで自分の内にある日韓の様々な問題への迷いを映し出したかのようなスタートでした。初日の独立記念館は、日本帝国主義からの独立運動についての展示が多くあり、日本人としては知ることが楽しいだけでは終わらない場所でした。二日目の景福宮では、韓国の時代劇で見る王宮の景色にワクワクして見学しながらも、戦争の暗い影がここでも垣間見えました。国立民俗博物館では、日本と同様のような生活文化がいくつもあ

つものを知り、同じアジアなのだなあと再認識。その後、タブコル公園へ行き、いろいろなレリーフで独立運動の歴史を学ぶと同時に、憩いの場としての今も感じました。西大門刑務所歴史館は多くの人が拷問され処刑された場所だから、建物のレンガ一つひとつに想いが染み込んでいくような重たさを感じました。三日目にウリムドゥレ生協との交流がありました。日韓の歴史について学んできた後で何と挨拶をしたらよいのかと思ひ悩んだりもしましたが、自分の活動の根っこである「子どもたち



ウリムドゥレ生協との交流会で、自己紹介する上川畑さん(左)。

が笑って生きていける未来のためにお互いに頑張りましょう」と伝えたところ、うんうんと頷いてくれる様子に、子どもを思う気持ちに変わりは無いのだと嬉しくなりました。今回のピョンファ・エ・ダリ韓国への旅を通じて解ったことは、私たち一人ひとりにできることはほんの小さなことだけれども、諦めないで続けていくのが大切だということ。一人ひとりが信頼関係を育てて連帯していくことによって平和な未来をつくること。それは大きなことである必要はなく、「いつてらっしゃい」の笑顔や「どうしたの？」と寄り添う少しの優しさが伝染していくことで、やがては平和な未来への循環が始まっていくのではないだろうか。そう考えると自分が笑顔でいることだって、大切な平和運動の一つだと解る。歴史は変えられないけれど、歴史を知ることによって変えられる未来はあるのだということを学んだ旅となりました。